

年 組 番 名前

## 「絵仏師良秀」傍線注釈

●配った現代語訳をもとにして、傍線注釈をすること。なお、常用漢字は必ず漢字に直して記すこと。  
●正格活用 of 動詞を  で囲み、活用形をその左側に記しなさい。

① これも今は昔、絵仏師良秀と  ありけり。

連体形

② 家の隣より火出で来て、風おしおほひてせめければ、逃げ出でて、  
大路へ出でにけり。

③ 人の書かする仏もおはしけり。

④ また、衣着ぬ妻子なども、さながら内にありけり。

⑤ それも知らず、ただ逃げ出でたるをことにして、向かひのつらに立てり。

⑥ 見れば、すでにわが家に移りて、煙・炎くゆりけるまで、おほか

た、向かひのつらに立ちて、眺めければ、

⑦ 「あさましきこと。」とて、人ども来とぶらひけれど、さわがず。

⑧ 「いかに。」と人言ひければ、向かひに立ちて、家の焼くるを見て、  
うちうなづきて、時々笑ひけり。

⑨ 「あはれ、しつるせうとくかな。年ごろはわろく書きけるものかな。」  
と言ふときに、

⑩ とぶらひに來たる者ども、「こはいかに、かくては立ちたまへるぞ。

⑪ あさましきことかな。もののつきたまへるか。」と言ひければ、

⑫ 「なんでふもののつくべきぞ。年ごろ、不動尊の火炎をあしく書き

けるなり。

⑬ 今見れば、かうこそ燃えけれど、心得つるなり。これこそせうとくよ。

⑭ この道を立てて世にあらんには、仏だによく書きたてまつらば、百

千の家も出で来なん。

⑮ わたうたちこそ、させる能もおはせねば、ものをも惜しみたまへ。」

と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ。

⑯ そののちにや、良秀がよぢり不動とて、今に人々めで合へり。